

地区の話題

「けえ」って何？

富倉公民館

富倉民謡の一節
信州富倉 峠を越えて
会いにくるとは ノッコラ
なつかしや ちゃっっちゃ
すわっせ あがらっせ
けえがなつたよ アチャ
月休み

この「けえ」とは、桐の木を削って作った笛のことです。富倉地域では、火災など緊急の際に人手を集めるために、この「けえ」を吹きました。生活用具のひとつです。かつて富倉の谷あいには「けえ」の響きは、貴重な情報伝達の手段でした。



「地域で育てるスポーツ」

信州大学非常勤講師
ロサンゼルスオリンピック代表



現在、世界バレーボール大会がテレビで放映され、男女共に地元開催の強みを生かし、国民の期待に応えられるべきがんばっている。
ここ飯山市では、飯山南高校に体育科が設けられ、スキー部に加え、女子バレーボール、野球、剣道が強化指定されている。飯山に引越してきた時、冬

野口 京子 (太田北条)

雪作業が困難な体育館は閉鎖されてしまい、体育館は暖房施設もない。先日、仕事で北海道に行ったが、ほとんどの公営体育館には暖房設備が導入されているという。地元から選手が育ち活躍してくれることで、地域は盛り上がり、応援や支援にも力が入るのではないだろうか。施設の有効利用など、私たち大人がもつと出来ることはないか考えてみたい。無限大の可能性を秘めた子どもたちのために…。

最近思う事

飯山公民館 広報部員 北條 恵

★オピニオン★
マイオピニオン
意見・私見

最近、いじめや自殺など子ども達の悲惨な事件が毎日のように報道されている。文部科学大臣からも異例の書面が発行され、事の深刻さを感じさせられます。私も3人の子どもを持つ親として深く考えさせられています。
大臣の書面の中に、「いじめの事実をなかなか保護者に訴えられない」とあります。確かに今の子ども達は、我々が子どもの頃と比べると、精神年齢は遙かに進んでいます。親に心配をかけまいと、笑顔を作り事実を隠してしまう事など簡単にできてしまいます。しかし、心の大きさや視野はしよせん子どもであり、間違った方に向かう事が多く、最悪自ら命をたつ事を選んでしまうのです。非常に残念

★オピニオン★
マイオピニオン
意見・私見



全国各地で、小中学生のいじめによる悲しい事件が頻発しています。その都度報道される教育委員会や学校側の温もりや深みのない自己中心的なコメントに、遣り切れない思いを持つのは私だけではないと思います。次代を担う子ども達を、その特性を伸ばしながらしっかりと育む責任は、学校教育の現場のほか、各家庭や地域社会にもあります。私たち大人は、何れかのかかわりでその責任を負っている

教育再生は愛すること

外様公民館長 清水 侃

改正すれば良い方向に向かうとは私には思えません。「愛国心」にしても、国や地域を愛する心は、国や地域、もちろん家庭からも愛されることによつてのみ芽生えるものと思うのです。
公民館活動は、こういった役割も負っています。外様公民館では、「かえるの学校」や、「広井川まつり」などを他団体とともに進めています。大人の都合による事業消化とならないよう留意しながら、今後も楽しく取り組んでいきたいと思つていま

勤労青少年ホーム後期講座スタート

市内に在住もしくは勤務する15歳から35歳の青少年を対象とした勤労青少年ホームの後期講座が11月4日から始まりました。

「ペン習字講座」

のし袋の表書きや芳名録、または年賀状の宛名書きといった筆ペンを用いて上手に書きたいと思つている方々の要望に応え、実践講座として11月4日、12月2日まで、全5回の日程でスタートしました。



講師の山本李京先生から、「一、うまくならうと思うこと、二、自分のくせを知ること、三、その上で意識して練習すること」の三つの上達の秘訣が説明され、正しい姿勢の取り方やペンの握り方、そして右払い、左払いなどの基本となる書き方について、順次ご指導いただきました。

9名の受講生は皆、非常に熱心であったため、回を重ねる毎に、見る見る上達していきまし

「英会話&国際交流講座」

11月9日から翌年の2月1日にかけて、全10回の予定で開催します。
夜7時になると、11名の参加者は講師の飯山市国際交流員のジョアンさんを囲み、それぞれの話題について、努めて英語を多く用いながら話し始めます。英会話教室というよりはむしろ、



参加者同士とジョアンさんの終始なごやかな交流の時間といった雰囲気。参加者らは、これから来るクリスマスや正月の料理づくりなど、充実した内容になるようにと自分たちで楽しそうに計画を立てています。

★オピニオン★
マイオピニオン
意見・私見

いじめによる相次ぐ自殺問題に思うこと

柳原地区 堀川弘之

いじめによる子ども達の自殺が後を断ちません。一口にいじめと言っても、肉体的な暴力によるいじめもあれば、言葉での暴力もあるでしょう。陰口を言われたり、大きな声で弱いものを罵つたりする事、また学級総員での無視もあれば、持ち物に落書きをされたり隠される、あるいは壊されるなどです。ここ数年では電子メールによる言葉のいじめも増えていることでしょうか。

最近の相次ぐ子ども達のいじめによる自殺報道には断腸の思いをさせられているのではないのでしょうか。自分の子どもはいじめをする側なのか、される側なのか傍観者なのか考えてみた方もいらつしやるかとお思います。子どもにしてみれば、どれに当てはまる立場であろうとも、大人たちには打ち明け難いものです。いじめにあつている子どもは、普段の表情とは違つて、どこが見られたり、逆にいつもより明るく振舞つたり、急に頭が痛いお腹が痛いなどと訴え学校に行くことを嫌がつたりするでしょう。必ずしもいじめを受けているという合図とは言いが本人も気づかぬうちに与えられているのだからと思えます。

いじめにより一人で苦しみ悩んでいる子どもにとつて、いじめた相手は殺してやりたいと感じるほど憎いものなのです。そう感じさせてしまうこと自体が犯罪なのです。また、いじめている子どもにしても何か大人に伝えたい闇の部分があるはずで、大人が知らない内に与えてしまつていけるのではないのでしょうか。皆さんも他人事と思わずに考えてみて下さい。

いじめをする側にしてみれば、からかつてみただけのはずが、された側は苦痛に感じてしまつても多々あり、大人が考えているより事態は深刻です。先生や大人達の前ではいい子を装つても大人に分らない裏側では、いじめを行なつていけるのではないのでしょうか。また、周りにいて見て見ぬふりをする者や、豪腕に屈していじめの仲間に加わる者、己の立場を死守したいがために実態を認めようとしない教育関係者、そして、自分には関係の無いことと軽視し、気づかない振りをしていける我々地域住民にも責任の一端はあるのではないのでしょうか。

小中高生のお子さんをお持ちの親御さんしてみれば、ここになるかと体育館スポーツ、グラウンドスポーツはオフになると聞いた。みんながウイנטースポーツで体力つくりをするのかと思つたが、そうではないようだ。この地域の特性を活かしたウイנטースポーツで選手を育成していくことは重要なことであるが、他スポーツが、春から秋まで身につけた技術練習を出来ないハンディは大きい。それぞれトレーニングをしているとはいえ施設も限られている。除

雪作業が困難な体育館は閉鎖されてしまい、体育館は暖房施設もない。先日、仕事で北海道に行ったが、ほとんどの公営体育館には暖房設備が導入されているという。地元から選手が育ち活躍してくれることで、地域は盛り上がり、応援や支援にも力が入るのではないだろうか。施設の有効利用など、私たち大人がもつと出来ることはないか考えてみたい。無限大の可能性を秘めた子どもたちのために…。